



横浜市立城郷小学校  
明治33年6月創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和6年2月26日  
3月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆

## いつからでも できる！

校長 さんべい あつし 三瓶 淳

20日(火)。いつものように下校する子どもたちを正門下で見送りながら、私の口から出た言葉が「さようなら～。暑いから、気を付けてね！」でした。自然と出てしまうぐらい気温が上がっていました。最近では平年並みの気温であっても、到着してきたジャンパーやジャケットを風には暑く感じて、手に持ったり、近くに置いたりする子を多く見かけます。中には学校に忘れて帰ってしまう子もいます。この先も寒暖差の大きい日が続きます。体調の変化には、気を付けるよう声を掛けていきたいと思えます。



さて、あと数日で3月となり、6年生は卒業式までのわずかな時間を仲間と共に過ごし、巣立ちの日を迎えます。そして、次なる夢や希望に向かって大きく羽ばたいて行きます。最高学年としての貫禄やリーダーシップが見られ、そして何より目標に向かって努力しよう、頑張ろうとする素晴らしい子たちです。その姿を見ていると、私は以前、自分が教えてきた子どもたち(生徒)のことを思い出します。

私が中学3年生を初めて受けもったクラスに寿司屋の息子がいました。文字通り、元気で明るくさっぱりとした性格でしたが、勉強にはあまり関心がなく、成績は下の方で外国語は諦めモードでした。柔道部に所属し、熱心に練習はしていましたが、高校で通用するほどではありませんでした。そこで顧問は、レスリングに転向することを勧め、彼は**進学した高校で1から始めました**。本人の努力もさることながら、指導者に恵まれたこともあり、高校3年次には神奈川代表として国体に出場するほどになりました。そして、レスリングの実績で大学には推薦で入ることができました。卒業後は、父が営む寿司屋を継ぐために港北区の実家に戻りました。



ほどなくして彼は、京都で店を構えている父の**知人のところへ修行**に出されました。当然の如く、1年間は無用ばかりだったようで、師匠に「いつから寿司のにぎりを教えてもらえるか。」と直談判したこともあったそうです。するとある日突然、師匠から「自分がやりたいと言ったのだから、材料の買い出しから寿司飯を作るところまで、全部自分でやってみろ！」と言われ、そこから彼の寿司職人への道がスタートしました。

実家に戻り、親父と共に寿司を握る頃には、創作寿司の出来栄や旨さが口コミで広がり、銀座を始めとし、アメリカやスペイン、イギリスと次から次へと有名店にスカウトされるほどになりました。現在は自分の店をロンドンに構えています。英語はもちろんスペイン語も自在に使って、会話ができるようです。1度お店に行きましたが、店長として従業員からとても慕われていました。昨年、寿司部門で全英一になったと報告がありました。この子の人生を思うと、勉強は学生時代だけではない、若い頃に経験したことは必ず役に立つと気付かされます。何より「**いつからでも、できる!**」と彼から教わった気がします。子どもたちも年度の切り替えをきっかけとして、夢や希望、人との関わり方、学習への取組方などをご家族と一緒に再検討してみるのも良いのではないのでしょうか。

最後になりますが、令和5年度も保護者並びに地域の皆さまにはたいへんお世話になりました。ありがとうございました。今後も城郷小学校をよろしく願いいたします。